

令和元年度 安全保障国際シンポジウム

一帯一路構想と国際秩序の行方

防衛省 防衛研究所

防衛省防衛研究所

編集・発行 防衛省防衛研究所

©2020 The National Institute for Defense Studies and the individual authors

〒162-8808 東京都新宿区市谷本村町5-1

www.nids.mod.go.jp

防衛研究所は、防衛省の研究・教育機関であり、防衛・安全保障に関する調査研究、幹部自衛官および事務系幹部職員の教育を行っています。

本書は、防衛研究所が開催した令和元年度安全保障国際シンポジウム（於：東京、2019年12月10日）の論文集です。本書で表明されている見解は、各執筆者個人のものであり、必ずしも執筆者の所属する組織や政府の見解を代表するものではありません。

本書の全部又は一部について、形態や手段を問わず、複製、情報検索システムによる保管、転送を行う場合は、出版者からの書面での許可が必要です。

ISBN 978-4-86482-091-2

翻訳・DTP制作・印刷 (株) インターブックス

まえがき

本論文集は、防衛研究所が2019年12月10日に開催した安全保障国際シンポジウム「一带一路構想と国際秩序の行方」における報告ペーパーをまとめたものである。シンポジウムの登壇者紹介やプログラムは、巻末に収録してある。

日本の重要な隣国である中国の成長は、周辺地域や世界に大きな変化をもたらしている。安全保障に直結する観点に注目するならば、中国の軍事的な能力と行動拠点が拡大する結果として、もし中国が一方的な行動を試みる場合には周辺諸国がそれを抑制できず大切な国益を失うという懸念がある。しかし中国の成長は経済、技術、外交などの分野におよぶ複合的なものであり、それが多くの国々との協力を達成できるのであれば、国際関係の運営のありかたが変わっていく可能性もある。例えば、BRICS（ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカ）などの新興諸国が、西欧諸国によって主導されてきた国際秩序の問題点を補うような形で、国際規範、貿易、金融などの分野で貢献してきた実績があり、今後も衝突を回避して国際社会を変革していくことは可能だという議論もある¹。もしそのような本質的な変化が起こるのならば、中国の軍事問題だけに警鐘を鳴らしても、国際社会の変革について中国と協力する国々には響かず、国際秩序をより望ましい形に導くことができなくなるおそれもある。

このような国際秩序の大きな変化の可能性を考えるうえで、中国の一带一路構想は重要なキーワードになっている。2013年に習近平国家主席が一带一路構想を提起し、その後中国内部において具体化の議論が進んで、2015年にその内容が公式に発表され、その後も対象とする分野や地域は追加されて広がっている。それにともない、「債務の罫」といった協力相手国の債務拡大や不透明性などの問題点も指摘されている。

一方、インフラ建設協力という出発点に限ることなく、文化、通信技術などの

¹ Oliver Stuenkel, *Post-Western World: How Emerging Powers Are Remaking Global Order* (Polity, 2016).

分野も含む中国の総合的戦略構想として理解するという立場がある²。また、中国政治の実態として、省級政府や国家海洋局などのアクターが、指導部のトレンドを読んでアピールできるように行動するという見解もある³。ひとつの一貫した戦略として一帯一路構想を明確にすることには無理があるとしても、この構想を習近平指導部が高く掲げ、中国のパワーが各分野で大規模に動員され、世界各国が動いている現実があり、それが国際秩序の将来を左右する可能性も否定できない。

防衛研究所では、このような問題意識から発して、多様な国から各分野の研究者を招き、本シンポジウムを企画した。その第1セッションでは、多種多様な意味を持ちうる一帯一路構想が、各国の戦略的観点からどのように見えるかを議論した。中国の蘇長和（第1章）は、一帯一路構想がもたらす連結性が、対立にもとづくリアリスト的国際関係を超克し、協調と尊敬にもとづく新たな国際関係を築いていくという中国における論理を展開した。ロシアのヴィクトリア・パノヴァ（第2章）は、先進諸国が築いてきた国際秩序をより公平に運営していくための一帯一路構想やBRICSによる協力の意義を高く評価し、ロシア・中国間の協力の成果と問題に言及した。米国のクリスティン・リー（第3章）は、一帯一路プロジェクトの多くには、採算性の欠如、現地利益との齟齬、当事国内への介入といった問題がつきまとい、これらを改善して当事国に有益な国際協力に転換する必要があると論じた。飯田将史（第4章）は、一帯一路構想が習近平の政治的権威の強化や国際秩序の変革に関する主張といった重大な戦略的要素を含むようになり、これに伴って海洋進出も展開する傾向にあると指摘した。これらの発表を受けて、佐橋亮による討論が行われた。

続いて第2セッションでは、現場の経済と安全保障の実態を、専門家の立場からより具体的に踏み込んだ議論がなされた。豪州のジェフリー・ウィルソン（第5章）は、インド太平洋地域でのインフラ建設需要と中国、豪州、米国、日本による協力プログラムとその特徴、成果を説明し、より透明性の高い協力の必要性を

² Alice Ekman ed., *China's Belt & Road and the World: Competing Forms of Globalization* (Institut Français des Relations Internationales, April 2019).

³ 益尾知佐子『中国の行動原理：国内潮流が決める国際関係』（中央公論新社、2019年）。

論じた。イタリアのアレッシア・アミギーニ（第6章）は、欧州連合（EU）ではインフラを含む中国との経済協力の価値に重きを置きつつも、域内規範との不整合や加盟国の利害競合の可能性などを問題視していると指摘した。増田雅之（第7章）は、中国公安部が主催する連雲港フォーラムを舞台として中国が協力相手国の法執行機関の能力を向上させるといふ、一帯一路構想を支援する趣旨で登場した新たな国際協力手法を紹介した。マカオの由翼（第8章）は、人民解放軍は一帯一路構想を支援するシーレーン防衛を唱えているが、これまで築いてきた西太平洋での海上作戦能力とはギャップがある現実を指摘した。これらの報告を踏まえて、秋本茂樹による討論が行われた。

最後の第3セッションでは、総合討議を行った。そこでは、国際秩序をめぐる規範の言説、デジタル技術の安全性、経済協力の調整メカニズム、北極海での協力と利害、国際金融制度の変革など、幅広いテーマについて議論がなされた。

本シンポジウムの終了後、世界は大きく変化している。特に2020年には新型コロナウイルス感染症の拡大があり、これが世界各地の人々の往来や経済・社会生活を根本的に変化させている。しかし諸国の行動が止まったわけではなく、中国の海洋における行動の活発化は米中関係のさらなる悪化をもたらしている。さらに、新型コロナウイルスをめぐる「戦狼外交」と称される中国の強権的な姿勢は、各国の警戒感を高めている。

読者が本論文集を、2019年12月の時点にとどまらず、変化していく一帯一路構想とその影響を読み解くための観点として活用していただき、よりよい国際秩序のありかたの複数の可能性を考察していただけるなら幸いである。

防衛研究所
研究幹事
庄司 潤一郎

目次

まえがき	3
------------	---

第1部

一带一路構想をどう見るか

第1章 世界的連結性、世界の変容、一带一路構想の国際関係

蘇 長和	11
------------	----

第2章 ロシアおよび拡大ユーラシアにおける一带一路構想の意義

ヴィクトリア・パノヴァ	21
-------------------	----

第3章 中国の一带一路構想における事業と課題

クリスティン・リー	33
-----------------	----

第4章 一带一路構想における習近平政権の狙い

飯田 将史	51
-------------	----

第2部

一帯一路構想をめぐる経済と安全保障

第5章 オーストラリアのインド太平洋インフラストラクチャー外交

ジェフリー・ウィルソン..... 61

第6章 一帯一路構想が欧州貿易に与える影響

アレッシア・アミギーニ..... 73

第7章 経済と安全保障の収斂を目指す中国：

ユーラシアにおける機能的協力の出現

増田 雅之..... 91

第8章 中国の一帯一路構想の戦略地政学的・軍事的動因：

大陸から海上領域へと拡大する世界展開

由 冀..... 99

執筆者略歴..... 121

「安全保障国際シンポジウム」プログラム..... 125